

ニュースレター News Letter

No.
10

<http://www.kochi-u.ac.jp/imt/>

2015.3

Promotion Program for Young Scientists and COE for Innovation of Marine Science and Technology



INDEX

- | | |
|-----|--|
| 1-2 | 「高知大学テニュアトラック制度成果報告会」開催 |
| 3 | 研究成果展開事業「先端計測分析技術・機器開発プログラム」採択(山田特任講師) |
| 4 | 国際学会等派遣報告(Ulanova特任助教) |
| 4 | 持田記念医学薬学振興財団平成26年度研究助成 採択(難波特任助教) |
| 5 | 武田科学振興財団2014年度研究助成 採択(難波特任助教) |
| 5 | 上原記念生命科学財団平成26年度研究助成 採択(難波特任助教) |

IMT 2015.3

「高知大学テニュアトラック制度成果報告会」を開催しました

平成27年2月20日(金)、高知大学朝倉キャンパスにおいて『高知大学テニュアトラック制度成果報告会』を開催しました。

冒頭に、高知大学脇口宏学長による開会挨拶の後、独立行政法人科学技術振興機構・豊田政男プログラム主管からテニュアトラック制の導入とその効果が紹介されました。

続いて、高知大学若手研究者評価支援機構副機構長の津田正史教授が「イノベティブマリンテクノロジー研究者育成について」と題し、本事業の経過および今後の展開について報告した後、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室和田勝行室長による来賓挨拶が行われ、さらに「イノベティブマリンテクノロジー研究者育成」事業の第二期テニュアトラック教員3名による研究発表が行われました。

最後に、高知大学田口博國理事(研究担当)による閉会の挨拶で締めくくり、成果報告会は他大学、各企業及び本学の教職員や学生等各関係者の参加により、盛況裡に開催されました。



会場内の様子



開会の挨拶をする脇口宏学長



総合司会の田口博國理事(研究担当)



テニュアトラック制の導入とその効果についてご講演いただいた
(独)科学技術振興機構プログラム主管 豊田政男氏



「イノベティブマリンテクノロジー研究者育成」事業について
報告をする若手研究者評価支援機構副機構長 津田正史教授



来賓としてご挨拶いただいた文部科学省科学技術・学術政策局
人材政策課人材政策推進室 和田勝行室長



「薬剤耐性膵臓癌に対する新規治療法の発見 - 海洋生物が産生する
化合物の新たな薬理活性の探索 -」 難波卓司特任助教



「全原子を測定対象とする次世代型NMR装置の開発」
山田和彦特任講師



「生物活性海洋天然物の化学合成」
田中秀則特任助教

研究成果展開事業「先端計測分析技術・機器開発プログラム」の平成26年度採択課題に選ばれました

山田和彦特任講師が代表者を務めるプロジェクト『全原子を測定対象とする次世代型NMR装置の開発』が、独立行政法人科学技術振興機構の研究成果展開事業「先端計測分析技術・機器開発プログラム」(要素技術タイプ)の平成26年度採択課題に選ばれました。

山田特任講師は、今回の採択について田口博國理事(研究担当)とともに脇口宏学長へ報告を行い、学長からは祝意と更なる活躍を期待する言葉が述べられました。

「先端計測分析技術・機器開発プログラム」は、(要素技術タイプ)(機器開発タイプ)(実証・実用化タイプ)の3つのタイプで、最先端の研究ニーズに応えるため、将来の創造的・独創的な研究開発に資する先端計測分析技術・機器及び、その周辺システムの開発を推進するものです。

【採択課題】

全原子を測定対象とする次世代型NMR装置の開発

【研究者代表】

高知大学 総合研究センター 特任講師 山田和彦

【研究概要】

本研究の目的は、周期表上の全ての原子を測定対象とする次世代型核磁気共鳴(NMR)装置の開発である。既存のNMR装置では、四極子相互作用や核-電子スピン相互作用に起因する線幅や感度不足が問題となり測定可能な核種が限定されている。そこで本研究では、磁場掃引型NMR装置に最先端の超高感度化技術であるオプトメカニクスと高温超伝導コイルを組み合わせた新規測定手法を提案し、全原子測定可能な世界標準の次世代型NMR装置として、我が国発の新しい分析機器のコンセプトを確立する。



本学学長室にて左から田口博國理事(研究担当)、山田和彦特任講師、脇口宏学長

国際学会等派遣報告 (Ulanova Dana 特任助教)

2014年10月8日(水)～12日(日)までトルコ(クシャダス、Pine Bay Holiday Resort)で開催された放線菌生物学国際シンポジウム(XVII. International Symposium on the Biology of Actinomycetes)に参加した。

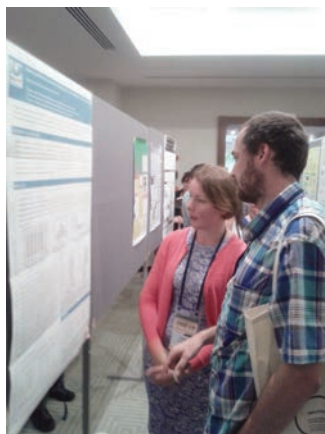
このシンポジウムは3年に1度行われ、前回はメキシコ、今回はトルコ、次回は韓国で開催される予定である。約370名の参加者があり、主に欧州からの参加者が多く、米国、カナダ、中国、韓国、オーストラリアなどの参加者もあった。日本からは約30名の参加者があった。

プログラムは全体講演や口頭発表・ポスター発表を中心に構成されており、発表の内容は放線菌の二次代謝産物の研究に関するものが多かった。また、合成成とその制御機構の話のみでなく、ゲノムマイニングや天然化学物質の抽出や探索についての話も多くあった。

私は土佐湾から採集した放線菌に関する研究についてポスター発表を行い(タイトル:Diversity and bioactive potential of actinobacteria from marine sediments of Tosa Bay, Japan)、多くの研究者と交流することができた。

このシンポジウムは放線菌の研究分野において最も有名な研究者を集めており、放線菌の生態学、生理学、二次代謝産物研究について彼らの話を拝聴し、討論する機会を持つ事が出来た。

今回の出張では、自身が高知大学で行った放線菌研究を本研究分野の主要な研究者達に紹介することができ、将来的な共同研究等への可能性が広がる有意義なものとなった。



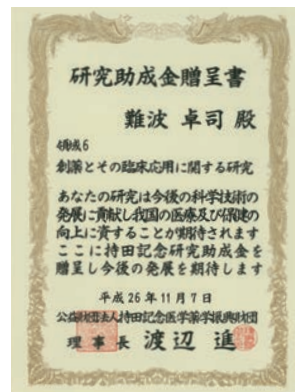
ポスター発表の様子
(左:Ulanova Dana特任助教)

持田記念医学薬学振興財団の平成26年度研究助成に採択されました

難波卓司特任助教が、公益財団法人 持田記念医学薬学振興財団の平成26年度研究助成に採択され、11月7日(金)に東京銀行協会ビルディング内銀行倶楽部3階大ホール(東京都千代田区丸の内)にて開催された平成26年度贈呈式に出席しました。

難波特任助教は、研究助成課題「創薬とその臨床応用に関する研究」において、『膀胱癌細胞における抗癌剤耐性化機構の解明と抗癌剤に再び感受性化させる既存薬の発見』という研究テーマにて交付対象者に選ばれました。

本研究は、膀胱癌におけるゲムシタビンの耐性化機構を分子レベルで明らかにするという基盤研究を推進し、且つ既存薬を利用することで基礎研究の成果を迅速に臨床試験へ応用することを目指すものです。



武田科学振興財団の2014年度研究助成に採択されました

難波卓司特任助教が、公益財団法人 武田科学振興財団の2014年度研究助成に採択され、11月12日(水)にシェラトン都ホテル東京(東京都港区白金台)にて開催された2014年度贈呈式に出席いたしました。

難波特任助教が採択された研究助成「医学系研究奨励」は、国内の大学医学部および大学の医学系研究部門またはその他の医学系研究機関に所属する研究者を対象とし、医学の進歩、発展に貢献する独創的な研究への助成を目的とするものです。

難波特任助教は、癌領域、精神・神経・脳領域、感染症、基礎、臨床の5つのプログラムのうち、癌領域において『オートファジーとアポトーシスを制御する新たな癌抑制遺伝子の発見と新規抗癌ターゲットの探索』という研究テーマにて交付対象者に選ばれました。

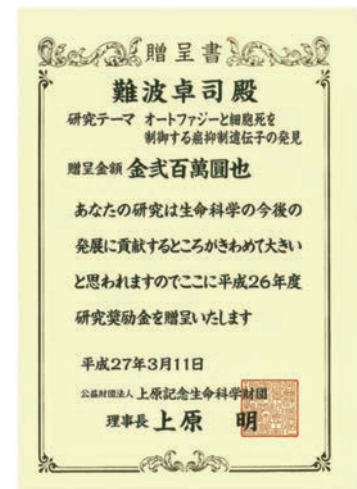


上原記念生命科学財団の平成26年度研究助成に採択されました

難波卓司特任助教が、公益財団法人 上原記念生命科学財団の平成26年度研究助成に採択され、3月11日(水)に大正製薬株式会社本社2号館上原記念ホール(東京都豊島区高田)にて開催された平成26年度研究助成金贈呈式に出席いたしました。

難波特任助教が採択された研究奨励金は、国内の大学および研究機関に所属する研究者を対象とし、生命科学、特に健康の増進、疾病の予防および治療に関する研究への助成を目的とするものです。

難波特任助教は、(1)東洋医学、体力医学、社会医学、栄養学、薬学一般(2)基礎医学(3)臨床医学の3つの分野のうち、基礎医学分野において『オートファジーと細胞死を制御する癌抑制遺伝子の発見』という研究テーマにて交付対象者に選ばれました。



編集・発行

イノベティブマリンテクノロジー研究者育成事業

News Letter No.10

平成27年3月発行

【表紙写真】 タイでの干潟調査(提供:高知大学総合研究センター三浦取特任助教)

国立大学法人高知大学
研究国際部研究推進課研究推進特別支援室

〒780-8520
高知県高知市曙町2丁目5-1
総合研究棟3Fプロジェクト共同研究室15
電話: 088-844-8842 / FAX: 088-844-8333
Email: kk41@kochi-u.ac.jp
URL: <http://www.kochi-u.ac.jp/imt/>